

2020年度 学校評価

I 2020年度 富士松中学校の教育

1 本校の教育目標

＜ 校訓：「自主」「協力」「創造」 ＞
「富士中プライド」
～ 富士中生としてのプライドを大切に、たくましい心と体をもった富士中生～

[めざす富士松中生]
富士松中生としてのプライドをもち、行動できる生徒

- ・「あいさつ」「感謝の心」「奉仕の心」を大切にして生活できる
- ・当たり前のことが当たり前に見える
- ・自己肯定感と自己有用感を実感できる

2 経営方針・重点努力目標

- (1) 確かな学力を身に付ける
「分かる喜び、できる楽しさ」「基礎・基本の定着」「聴くことを大切にしたいきめ細やかな指導」
- (2) 豊かな心を育む
「当たり前のことが当たり前に見える」「何事にも自ら考え自ら行動する」
「自己肯定感や自己有用感をもつ」
- (3) 命の尊重と体力向上を図る
「全教育活動を通じた命の指導」「保健・食の指導と自己健康管理の意識高揚」
「いじめ・不登校生徒に対する的確な対応」「体育の授業、活発な部活動を通じた体力向上」

II 学校評価のねらいと方法

1 学校評価のねらい

教育活動、その他の学校運営について設定した目標に対し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。

自己評価及び学校関係者による評価の実施とその結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 評価の方法

＜自己評価＞

- ・生徒：教育目標に基づいたアンケート（全生徒対象）
- ・保護者：教育目標に基づいたアンケート（全保護者対象）
- ・教職員：教育目標に基づいたアンケート、行事ごとの反省、学期ごとの反省（全職員対象）

＜学校関係者評価＞

- ・学校評議員：自己評価結果を資料として、学校評議委員会で現状報告と意見交換。
学校経営に関するアンケート

＜第三者評価＞

- ・学校に直接関係のない専門家：特別には実施せず。

※判定について

各項目について、「思う・少し思う・少し思わない・思わない」で回答する。

「思う・少し思う」と回答した割合に対して、次のように判定する。

A判定（100～80％）、B判定（79～70％）、C判定（69～60％）、D判定（59％以下）

3 評価アンケート(全校生徒数:554人)

生徒アンケート：全生徒対象（515人、回答率93.0％）

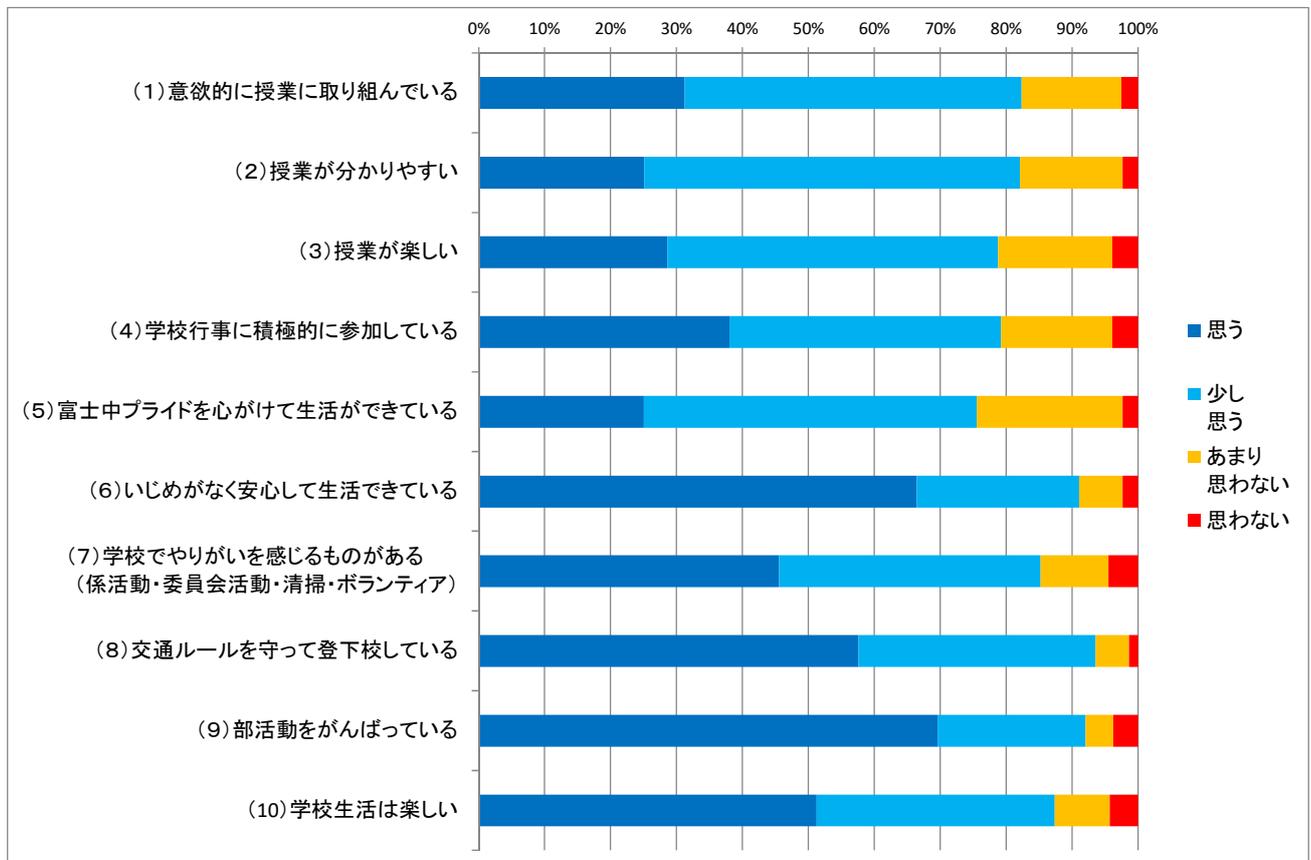
保護者アンケート：全保護者対象（477人、回答率86.1％）

教職員アンケート：全教職員対象（34人、回答率100％）

Ⅲ アンケート結果

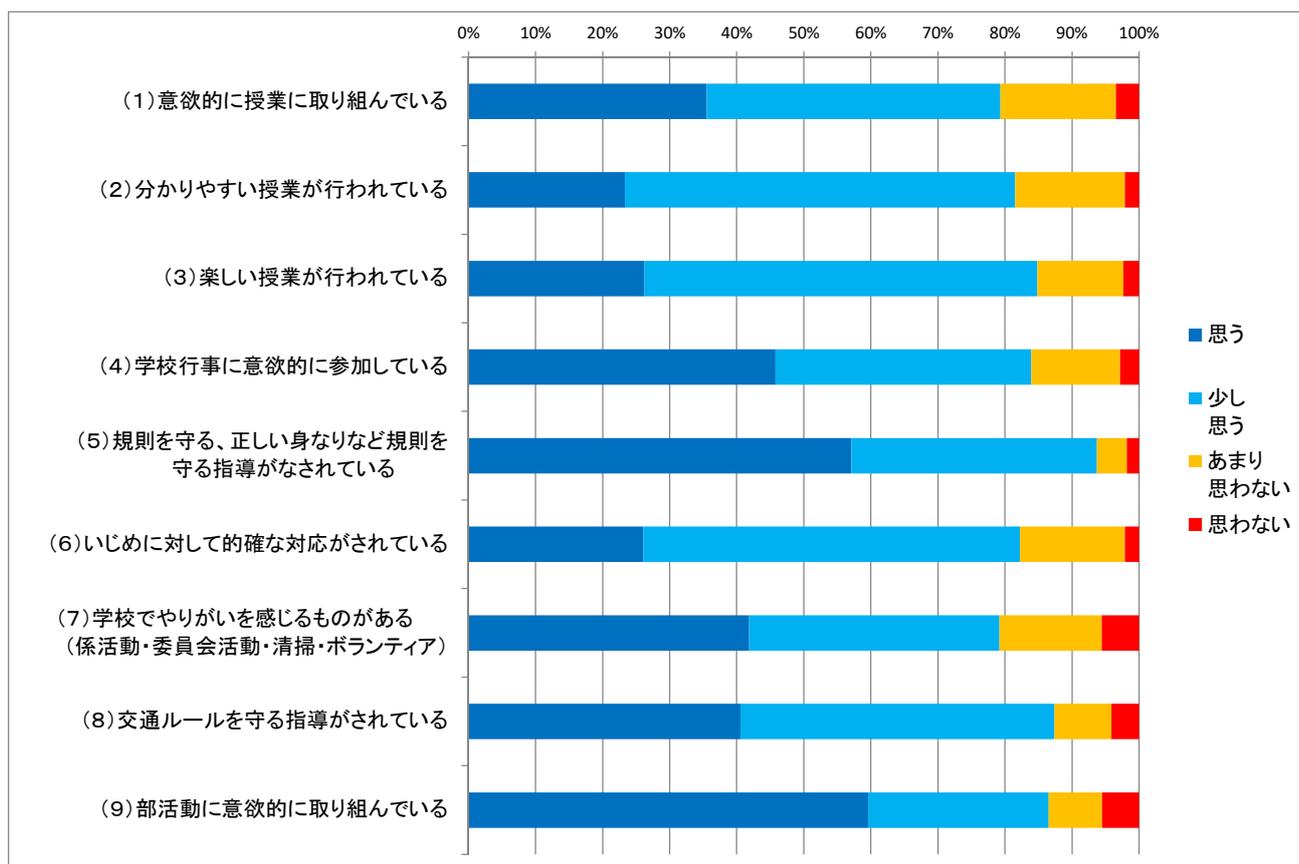
1 生徒アンケート

2020年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	思う・ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	(1) 意欲的に授業に取り組んでいる	31%	51%	15%	3%	82%	A
	(2) 授業が分かりやすい	25%	57%	16%	2%	82%	A
	(3) 授業が楽しい	29%	50%	17%	4%	79%	B
(2) 豊かな心を育む	(4) 学校行事に積極的に参加している	38%	41%	17%	4%	79%	B
	(5) 富士中プライドを心がけて生活ができています	25%	50%	22%	2%	76%	B
	(6) いじめがなく安心して生活ができています	66%	25%	7%	2%	91%	A
	(7) 学校でやりがいを感じるものがある (係活動・委員会活動・清掃・ボランティア)	46%	40%	10%	4%	85%	A
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	(8) 交通ルールを守って登下校している	58%	36%	5%	1%	94%	A
	(9) 部活動がんばっている	70%	22%	4%	4%	92%	A
	(10) 学校生活は楽しい	51%	36%	8%	4%	87%	A



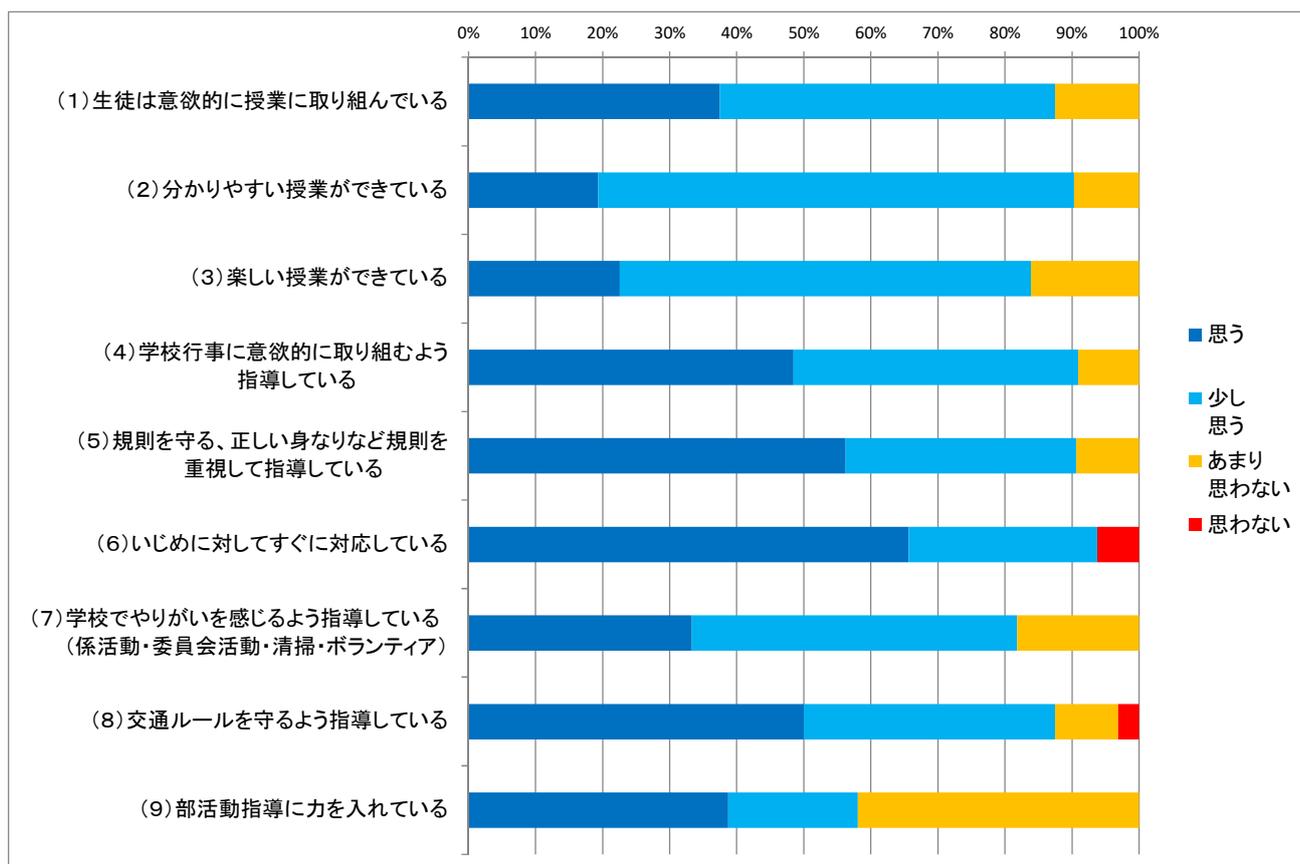
2 保護者アンケート

2020年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	思う・ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	(1) 意欲的に授業に取り組んでいる	35%	44%	17%	3%	79%	B
	(2) 分かりやすい授業が行われている	23%	58%	16%	2%	82%	A
	(3) 楽しい授業が行われている	26%	59%	13%	2%	85%	A
(2) 豊かな心を育む	(4) 学校行事に意欲的に参加している	46%	38%	13%	3%	84%	A
	(5) 規則を守る、正しい身なりなど規則を守る指導がなされている	57%	37%	4%	2%	94%	A
	(6) いじめに対する的確な対応がされている	26%	56%	16%	2%	82%	A
	(7) 学校でやりがいを感じるものがある (係活動・委員会活動・清掃・ボランティア)	42%	37%	15%	6%	79%	B
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	(8) 交通ルールを守る指導がされている	41%	47%	8%	4%	87%	A
	(9) 部活動に意欲的に取り組んでいる	60%	27%	8%	6%	87%	A



3 教職員アンケート

2020年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	思う・ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	(1) 生徒は意欲的に授業に取り組んでいる	38%	50%	13%	0%	88%	A
	(2) 分かりやすい授業ができています	19%	71%	10%	0%	90%	A
	(3) 楽しい授業ができています	23%	61%	16%	0%	84%	A
(2) 豊かな心を育む	(4) 学校行事に意欲的に取り組むよう 指導している	48%	42%	9%	0%	91%	A
	(5) 規則を守る、正しい身なりなど規則を 重視して指導している	56%	34%	9%	0%	91%	A
	(6) いじめに対してすぐに対応している	66%	28%	0%	6%	94%	A
	(7) 学校でやりがいを感じるよう指導している (係活動・委員会活動・清掃・ボランティア)	33%	48%	18%	0%	82%	A
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	(8) 交通ルールを守るよう指導している	50%	38%	9%	3%	88%	A
	(9) 部活動指導に力を入れている	39%	19%	42%	0%	58%	D



IV 学校評価のまとめと今後の努力事項

1 確かな学力を身に付ける。

今年度は、コロナウィルス感染症への対策のため休校期間があり、授業時間の確保が大変難しい状況であった。これまで行ってきた話し合いを大切にした授業スタイルをとることが難しくなり、実技教科においても飛沫が飛びやすい内容、接触が多い内容は制限された。講義型の授業をすることも多くなり、生徒のモチベーション低下が心配された。

しかし、アンケートの結果「意欲的に授業に取り組んでいる」と回答した生徒は82→82%、保護者回答は77→79%とほぼ昨年度と同様であり、状況を考えると良好な結果だと考えられる。来年度は、状況の変化に応じて、授業スタイルを元に戻していくとともに、モチベーションをさらに高めるような言葉かけを工夫するなどして、より満足度の高い授業を実施していきたい。

また、「授業が分かる」と回答した生徒は、81%→82%、保護者回答は77%→82%と向上している。そして、「授業が楽しい」と回答した生徒は78%→79%、保護者回答は80%→85%と向上している。

これまでの調査結果と比較してみても、年々肯定的な回答が多くなってきていることから、学習に関して良好な状態であることが分かる。

これは、現在、落ち着いた雰囲気の中で各教科の授業が行われていることが、大きな要因であると考えられる。3年前より授業改革の大きな柱として、教職員が生徒の基礎的・基本的な学力の向上のため、生徒に「身に付けさせたい力」を明確にし、生徒同士の関わり合いを大切にしながら授業を行うようにすることを掲げ、継続してきた。3年目となった今年は、その成果がより現れ、「授業が分かる」「授業が楽しい」と回答する生徒が増加したと思われる。

しかし、「授業に意欲的」「授業が分かる」「授業が楽しい」のそれぞれの項目において、教職員回答より生徒・保護者回答の数値の方が低いことから、さらに授業改善に努めていくことを怠ってはならないと考えている。

また、来年度は、新学習指導要領に基づいた教育活動が展開されることとなるので、学びに向かう姿勢をさらに高めていく工夫が大切になる。さらに、一人一台貸与されたタブレット端末の活用も重要な課題である。新しい授業のスタイルを模索していかなければならないと考えている。

2 豊かな心を育む。

「学校行事に積極的に参加している」と回答した生徒は、77%→78%とB判定であるものの、向上している。これは、コロナ感染症への対策で行事が縮小されたり中止されたりする中、実施時期や内容、方法を変えて、安全を保ちながら行事を実施してきた成果だと考える。今後状況が好転した後に、これまでの行事をより生徒が主体的に取り組むことができるよう内容や方法を見直し、意欲的な参加を促したい。

また、「きまり等を守って正しい生活ができています」と回答した生徒は昨年度と同じ(78%→78%)であった。保護者からの回答も、ほぼ同様(93%→94%)となっている。きまりを守ることは、社会生活を営む上で大切なことであることから、今後も保護者の協力を得ながら生徒が納得する指導に努めていきたい。

「学校でやりがいを感じるものがある」の項目では、生徒回答(84%→82%)、保護者回答(84%→83%)となっている。今年度制限の多かった生徒会の活動や学級での係活動のような自治活動、学校行事、部活動など、生徒が輝く活動の充実を図りたい。

「いじめもなく安心して生活できている」の項目に関して、生徒回答は90%→91%であった。また、「いじめに対してはすぐに対応している」と回答した教職員が94→94%だったのに対して、「的確な対応がされている」と回答した保護者は76→82%であった。生徒の思いと、生徒の家庭でのつぶやきを聞いたり様子を見たりしている保護者の不安、教職員の意識にあった開きが少し小さくなった。「いじめはいつ、どこでも起こり得る」という認識のもと、引き続き生徒理解や未然防止、即対応に心がけてきたことが功を奏していると思われる。

しかし、全ての生徒が安心して学校生活を楽しみ、保護者がより安心して学校に通わせられるように、心がける必要がある。今後とも、保護者との連携を図り的確に状況を把握しながら、日々の共感的な指導や道徳的な実践力の向上を図っていきたい。また、学期ごとの個人面談を継続したり、生活アンケートやQ-U検査などを活用したりして、生徒理解に努めていきたい。

3 命を尊重する。体力向上を図る。

今年度は、部活動が年間を通して朝の部活動廃止となった。さらに、コロナウイルス感染症の影響もあり、活動が大きく制限された。各種大会はもちろん、練習試合ですら思うように実施できず、校内で練習をすることが精一杯であった。その校内練習でも、密を避け、飛沫が飛ぶことを防ぎながら行ったので、これまでとは活動内容がずいぶん違ってしまった。手指消毒をしっかりと行うため、活動時間を確保することも難しかった面もある。生徒の部活動に対するモチベーション低下が心配されたが、「部活動をがんばっている」と回答した生徒は92%

(92%→92%)とA判定を維持している。保護者の回答は87%と昨年よりも低下している。(89%→87%)教職員の回答は58%でD判定となった。これは、先にも述べたとおり、目標としてきた大会やコンクールが中止となっただけでなく部活動の時間が十分に確保できなかったことが大きいと考えられる。限られた時間の中で手洗いや消毒を徹底して行うこともあり、さらに活動する時間が限られたこともあり、生徒を存分に活動させることが難しかった。生徒に目標を達成させるためのプロセスを経験させるなど教育的意義の高い活動であるので、活動の縮小を残念に感じる教員が多かった。今後は、感染症の拡大状況をにらみながらではあるが、対策をしっかりと行いつつ、練習方法やトレーニング法を工夫して、限られた時間を有効に使い体力や技能の向上を図らせたい。

また、保護者の自由記述回答の中で、教職員の言葉がけに対する疑問や活動に対する期待の声がよせられている。これを真摯に受け止め、生徒にやる気をもたせ、今後もやりがいを感じる効果的な部活動運営を行っていかねばならない。

本校の大きな課題に「交通マナーの向上」がある。約80%の生徒が自転車通学をしている本校では、とりわけ自転車の並進の禁止、歩行者への配慮などが求められており、地域からもしばしば指摘をいただいているのが実状である。

そのような中、「交通ルールを守って登下校している」と回答した生徒は90%いる。交通安全に対する生徒の意識をよりいっそう高める必要がある。また、「指導している」と回答した教職員は84%で、「指導がされている」と回答した保護者は85%であった。それぞれA判定の範囲内ではあるが、保護者や地域からの理解が得られるような状況には至っていないと考えるべきである。今後も登下校時の教職員による交通立哨や交通安全集会の実施、学級での交通安全指導などを通して継続的に指導し、生徒の交通安全に対する意識の高揚を目指したい。